

第 30 回 猪名川自然環境委員会 議事要旨

1. 日 時 令和 3 年 1 月 25 日 (月) 10:00~12:00
2. 場 所 ウェブ会議
3. 出席者 委員：竹門委員、田中委員、服部委員、松井委員、村上委員、森下委員（委員長）
猪名川河川事務所：井樋所長、幅岸副所長、志鹿総括保全対策官
（工務課）永野工務課長、渡部指導官、川西専門職、川合保全対策官、
新地維持係長
（園田出張所）山田出張所長
庶務：いであ株式会社 兵藤、佐中、高地、米倉
4. 議 事 (1) 令和 2 年度工事予定箇所環境面からの評価
(2) 猪名川自然再生事業 河原環境の再生の評価
(3) 「令和 3 年度両生類・爬虫類・哺乳類調査」における河川水辺の国勢調査を行う上での猪名川における補足事項（案）

5. 結 果

(1) 令和 2 年度工事予定箇所環境面からの評価

(猪名川大橋地区河原環境再生工事のオギ移植)

- オギの移植について、多年性草本のセイタカアワダチソウやメリケンカルカヤ等が侵入・定着しないように注意する必要がある。令和元年度の移植箇所ではイネ科の一年生草本（メヒシバ、アキノエノコログサ、オオクサキビ等）が確認されていることは大きな問題ではない。

(移植に頼らない施工方法)

- 最終目標としてオギ群落等を移植により回復させるのではなく、工事実施箇所でも自然にオギ群落が成立するような基盤環境を創出できる施工方法を見つけていくことが重要である。

(工事後の出来高の記録・提示)

- 環境配慮は特定の生物を対象として行うのではなく、どのような地形を形成し、どの程度の土砂が移動できるようになったのかという観点で、掘削形状（断面や凹凸）や掘削土量等の情報を把握できると良い。特に河道掘削工事（低水路内）を行う際には、出来高というのを記録として示して頂きたい。

(工事による影響の予測に関する資料の修正依頼)

- 「口酒井地区河道掘削工事」及び「猪名川森本地区他河道掘削他工事」では、アオサナエやヒメサナエの流水性の生物については工事後に速やかに回復するが、止水や緩流を好むキイロサナエやヨコミゾドロムシについては影響が異なるので分けて記載して頂きたい。

(2) 猪名川自然再生事業 河原環境の再生の評価

(「はじめに」に関する記載表現の修正)

- かつての河原環境を中心とした河川生態系から「変化」という記載があるが、自然再生事業では自然環境が衰退したから再生しているため、「変化」ではなくて「衰退」と表現を修正して頂きたい。

(河原環境の再生の総括におけるインパクト-レスポンスの結果の追加)

- 評価項目において、物理環境の変化と生物環境の応答（インパクト-レスポンス）の関係も把握して結果の考察に活用すると明記している。インパクト-レスポンスを評価できるデータを取得して考察もできているため、最後の結論（総括）においても、インパクト-レスポンスの結果を明記して頂きたい。自然再生事業によって自然裸地が増加したという言い方はできるが、自然裸地が増加したその真の理由は上流から洪水によって土砂が動いてきたということであり、区別して記載する必要がある。

(砂州の切下げによる土砂移動の活性化に関する分析の必要性)

- 提示された資料から、砂州の切下げ（掘削）を行い、土砂移動を活性化することで、砂州地形の伝播によって切下げ箇所の下流域の地形が形成されるプロセスが示されている。今後は、洪水規模と砂州の伝播距離の関係や土砂移動が活性化されたことによる土砂収支（侵食・堆積の生起）等について、インパクト-レスポンスの観点から分析をしていく必要がある。

(多自然川づくりの観点を考慮した河川管理の実践)

- 河原環境の再生の事業としてはこれで完了であるが、治水事業の中でも多自然川づくり（自然再生を含む）の観点を考慮した河川管理を進めて頂きたい。多自然川づくりを実践するための方法や材料は、今回の評価の中で示されているので、これらのデータに基づいて、治水事業の中に自然環境保全や再生を目標とするやり方を定式化して頂きたい。

(生物の応答に関する今後の課題)

- 河原環境を再生し、生物環境の初期の応答としては目標通りの結果となった。しかし、例えば指標のひとつであるカワラナデシコは一度消失しているため、再生して生物環境が応答（遷移）するには時間を要するため、今後の課題が残されているとは留意して頂きたい。

(3) 「令和3年度両生類・爬虫類・哺乳類調査」における河川水辺の国勢調査を行う上での猪名川における補足事項（案）

(外来種の生息状況)

- 猪名川では外来種を管理したことで現在は在来種が増えてきていると考えられる。そのため、猪名川の河川環境を在来種の確認の有無だけで見るのではなく、外来種の生息状況についても把握する必要がある。
- 爬虫類について、猪名川で個体数や現存量が多いのはウシガエルである。外来種についてはウシガエルとミシシippアカミミガメを入れて頂きたい。

(底生動物調査の補足事項)

- 底生動物調査の補足事項について、特定の種に限定して注目すればよいという訳ではない。底生動物は群集レベルで見た上で、生活型による整理によって、現状が何で、何が欠けているのかとかどんな課題があるのかを導き出すという発想が必要である。

(魚類調査の補足事項)

- 魚類調査についても重要種の経年変化だけではなくて、猪名川の魚類相と生息環境（瀬・淵、わんど等）の再生を目指して頂きたい。

以上